



〔長野市七二会で民泊をされているスミス夫妻〕

【人物紹介】

東京都生まれの陽子さんとイギリス出身の夫のアダムさんの出会いはイギリス。語学留学のため陽子さんが単身渡英をされた時、陶芸窯で仕事をされていたアダムさんと知り合い、その後陽子さんとともに来日し間もなくご結婚されたそうです。アダムさんの陶芸修行の為しばらく愛知県で生活をされていましたが、21年前、長野県長野市七二会地域にある古民家に出会い、移住されました。現在、陽子さんは、耕作放棄地を利用した「ソルガム」の栽培と販売、料理講座、そして民泊をされています。また、それらを通して七二会地域の活性化活動に繋がっています。

(※ソルガムは、イネ科の穀物。ソルガムキビともいう)

森の古民家リトリート あだむさんち

長野市七二会 スミス 陽子さん

長野県 民泊事例 No.2



〔「あだむさんち」の近くからみえる美しい山々〕

【民泊を始めたきっかけ】

長野市七二会での暮らしをSNSで発信したところ、「遊びに行きたい!」との声が届きカフェを始められました。

そのような活動をしている中、「もっと長く居たい」との要望があったそうです。

「自然豊かな七二会で、のんびり過ごしていただけたら私たちもうれしいね…」という気持ちで、母屋の隣の建物で民泊をスタートされたそうです。



〔完全予約制のカフェのメニューのひとつ〕
〔 ソルガムバーガー 〕

【民泊「森の古民家リトリートあだむさんち」】

(リトリート (retreat) とは、日常を離れ、自分に向き合ったり、今までにない経験をする場所や時間のことを言うそうです。)

「ご宿泊になるお客様は、散歩などをして、ここで一日中のんびり過ごしたり、七二会を拠点に日帰りで、長野駅周辺・戸隠・白馬・安曇野方面や山ノ内方面に毎日出かける方も多いですよ。」と話を聞かせていただきました。

市街地や観光地まで1時間ほどの距離は、美しい景色を眺めながらの楽しいドライブになりそうです。



〔一歩外に出れば梢の葉擦れの音や鳥のさえずりが聞こえる静かな場所〕



〔土間をフローリングに改築し、手作りテーブルを置く〕



〔台所は明るく、使いやすいように〕



〔二階は天井が高く、明るい遊び場があります！卓球台とダーツ等々…〕



〔トイレ・洗面所も素敵に変身〕

民泊をされている建物は、築140年の古民家です。
日当たりが良くとても広々としています。

台所、洗面所、トイレ、宿泊室、土間など…
元々大工さんだったご主人のアダムさんが、古民家のいたるところを直し、自分好みの我が家になっているそうです。
お話を伺った時には、
「一つ仕上がると別の場所が気になって…次はこっちだね！」と、
にっこり笑顔。
古民家の味わいと、手作りのぬくもりが感じられました。



〔手作りのフローリングの客室〕



現在、陶芸家として活躍されているアダムさんは、陶芸工房もご自身で改築されました。

工房には、たくさんの素敵な作品が飾られています。

また、カフェで提供されているランチの食器は、全てアダムさんの作品です。

直火に掛けられる料理器具は、特に人気があるそうです。イギリスは煮込み料理が多く、直火に掛けられる調理器具は大変重宝するとのこと。

民泊施設のすぐ近くにあるカフェは完全予約制で営業されています。手作りの家具と陶芸作品に囲まれた中でのランチタイムはいつもと違った時間を過ごせそうです。

〔アダムさん作のお皿や湯飲み使用。
棚にある陶芸も、全てアダムさんの作品〕



〔土蔵工房ギャラリー〕



〔アダムさんの陶芸作品の数々〕





建物から一步外に出れば、静かな森が目の前に広がっています。

「七二会は素敵なおとこ！ 特に朝が素晴らしい！
鳥のさえずりで目が覚め、白く美しい北アルプスや雲海を眺めながら散歩をして…
深く深呼吸をするととても気持ちがいいですよ。
自然の中でゆったりと過ごしていただけたら嬉しいです。」

と、笑顔で話をしてくださいました。

また、「移住を考えて訪れるお客様も多く、私たちの経験談を話すこともあります！」と。

【今後の「森の古民家リトリートあだむさんち」】

民泊にいらしたお客様とやってみたいことがあるそうです。

4年前からソルガムの栽培をご夫妻2人で始められました。
今後はお客様と一緒に栽培や収穫をしたり、そのソルガムと一緒に調理して食べるなど、ソルガムをテーマに企画していきたいそうです。

また、イギリスの家庭料理作りや、
アダムさんの手ほどきによる陶芸体験も考えているそうです。

「これまでは頑張りすぎて無理をしてきたようにも感じています。
今後は、肩の力を抜きつつ、丁寧に物事を進めたいと思っています。」
と、スミス夫妻のお気持ちを語っていただきました。





【地域とのつながり】

スミス陽子さんは仕事をされながら、地域の活性化につなげたいと、「まちむら寄り添いファシリテーター養成講座（長野県及び長野県教育委員会主催）」を受講し、ソルガム普及など活動の幅を広げられています。

「他地域の方が七二会に訪れて交流を持つことにより、これからの明るい七二会に繋がっていく」

令和元年度は同講座で結成されたチームでワークショップを行ったり、七二会の魅力が多くの方に伝わればと、季刊誌「魅力再発見マガジン七二会」を発行されました。

令和2年度に開催する予定だった企画は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期。

令和3年度は「竹」をテーマとした企画の開催を目指して、七二会在住の有志の方々と長野市市民協働サポートセンターの協力を得て、活動を再開されたそうです。



長野市七二会に移住されてから21年。日々を大事に一步ずつ進むことを大切にしたいという、スミス陽子さんの笑顔の中に力強さを感じました。

「七二会地域の風土を大切に、地域の活性化に繋がるよう、自分たちのできることを丁寧に続けていきたいと思います。」

自然にあふれる七二会で、地域の活動や民泊の経営など、笑顔いっぱい活躍されているスミス陽子さんを紹介させていただきました。



〔アダムさんがチェーンソーで彫ったねずみと猫〕

〔「季刊七二会」（右側）
〔七二会地区住民自治協議会のパンフレット（左側）〕